

第一部 長崎医科大学の原子爆炎

長崎医科大学長

古屋野 宏 平

おもえば八月九日、爽かに晴れた朝、先づ警戒警報が出、次で七時すぎ空襲警報となり、九時には之れが解除のサイレンが鳴り渡つたので、人々は常態に復つて講義に、診療に、それぞれの部署について居た。十一時二分、突如怪光一閃つゞく轟音と共に——“ピカドン”と言ふ表現は端的である——長崎市の北西部は潰滅に歸した。爆心から六〇〇〜八〇〇米の圏内にあつた長崎医科大学、附属医院、薬学専門部、風土病研究所、看護婦寄宿舎等一連の建物は、八五〇有余名の職員、学生生徒と共にこの例外であり得なかつた。

本来なら八月は夏期休暇中であるが、当時は非常短期速成で休暇を返上して授業が続けられ、加うるに一九四〇年頃から、いわゆる東亜共栄圏への医師の供給に備えて、臨時附属医学専門部（主事高木純五郎教授）まで置かれたので、犠牲学徒の数は倍増したわけである。

大学の管理部と基礎医学の教室は薬学部と共に、附属医院よりも爆心にや、接近した丘上に、木造で建てられていた。看護婦宿舎は附属医院の構内であつたが、木造二階建であつた。之等木造建築は爆発と同時に倒潰し、次で原子の驚く可き高度の熱エネルギー放射によつて燃え出したので、管理部の如きも、山木事務官ほか給仕さんまで、一切の書類帳簿と共に灰となつた。（ちなみに山木君は大金庫の前に席があつたので、一時圧死をまぬがれたらしく、救いを求むる声を国房

教授は聞かれたとか。）

基礎科の内藤達男教授（細菌）は教室の廊下で、大倉玄一教授（衛生）は教室で、清原寛一教授（生理）は教室内で圧死されたことがお遺骨に添つた遺品により確かめられた。わけても池田、清原、永井、金子（直）の四教授、中村（定八）助教授の如きは御家族まで全滅された。

当時基礎科の五つの講堂では講義中であつたから、小野直治教授（医專解剖）、芦塚陽助教授（生理）、梅田薫教授（病理）、斉藤圭一教授（医專生化学）、福田秀信教授（医專衛生）等は教壇に、これを前に学生のお遺骨が、整然とその座席にならんで発見された。第一次大戦の際、独軍の爆弾によりベルダンのざん壕に、銃尖のみを現わして整列埋死した仏軍の話は聞くが、大学の講堂で平和の学徒が、斯かる死をとげたことを私は知らない。

薬学専門部では当時幸にも一、二学年生は熊本県の水俣、山口県の小野田、その他の工場に勤勞奉仕で出て居り、三年生は学内で防空壕を掘つていたので、多くは壕中にいた、め犠牲が少かつた。たゞ杉浦孝教授（衛生化学）が薬草園で爆死された。

東亜風土病研究所は一九四二年併設され、角尾所長ほか所員の発令もあり、建築費は民間寄附の二十餘万円も調つて、窮乏の最中に漸く

のことで資材万端が集つていたが、起工寸前という所で一切烏有に帰した。

臨床科教室（附属医院）は基礎科教室と一〇〇米余の谷をへだてて、やや低い丘に鉄筋コンクリートの三階建が、南向きにて並行していた。各室は中廊下を挟んで南北両側にならんでおり、爆心は北西にあつた。従つて北側の部屋に居た者は放射線に直面することとなり、南側の者に比し死者を多く出したが、（附図参照）木造のように倒潰による圧死はなく、僅かに内藤勝利教授（産婦人科）の如く書架の下敷となられたり、山根浩教授（眼科）の如く落下物により重傷を負われた例はある。当日登院していて助かった北村包彦教授（皮膚科泌尿器科）、調来助教授（外科）、長谷川高敏教授（耳鼻咽喉科）、古屋野宏平教授（外科）、永井隆助教授（理療科）等は皆南側にいた者である。放射線による傷害で斃られた角尾晋学長（内科）、石崎成助教授（外科）、大和田野浩一講師（外科）などの部屋は北側で爆心に向つて窓が開いていた。

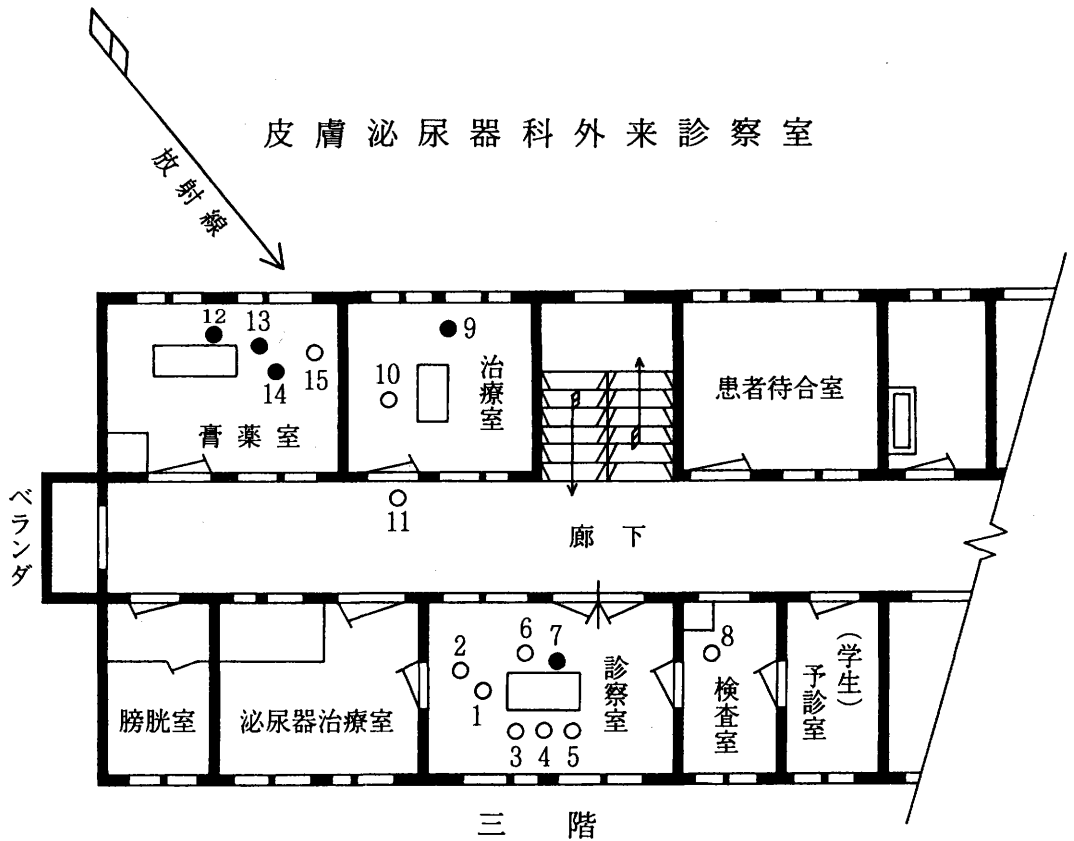
基礎科の教授中にも逃れ出て一時助かつた方はあるが、高木純五郎教授は、收容された横穴防空壕内で枕をならべて居た角尾教授も診察したわれ／＼にも、全く見当がつかず、診断不明のまゝ、たゞ水を飲んで吐き飲んで吐きしながら、十一日悶死された。お遺骸はテニスコートに土葬した。国房二三教授（法医）は御自宅で十五日に、祖父江勘文教授（薬理）は佐野保教授のお宅に運ばれて、自ら気管切開を試みんとする程の強い口狭炎性呼吸困難を起して十六日に、亡くなられた。臨床科の山根浩教授は破傷風を発して十五日に、角尾晋学長は自ら赤痢を疑われた程の血便下痢に、四十度を越える稽留高熱が加わり二十二日遂に逝かれた。病院の構内に皆で木材をつみ火葬を営ん

だ。爆災から復興の當時を回顧すれば、涙と共に思い出は次ぎ次ぎと湧いて止まない。

「追憶」より

（被爆直後、重症の角尾学長は古屋野教授に後事を託された。古屋野教授は学長代理、次いで学長として復興に尽力された。）

皮膚泌尿器科外来診察室



三階

- | | | |
|-----------|------|----------|
| 1. 北村教授 | 受傷 | |
| 2. 西森学生 | 受傷 | |
| 3. 黒木副手補 | 無傷 | |
| 4. 東岡先生 | 受傷 | |
| 5. 金子講師 | 受傷 | |
| 6. 後田看護婦 | 脱毛 | |
| 7. 橋本看護婦 | 脱毛発熱 | 八月二十六日死亡 |
| 8. 土橋看護婦 | 受傷 | |
| 9. 中山助手 | 受傷 | 八月末死亡 |
| 10. 山崎看護婦 | 受傷 | |
| 11. 浜崎看護婦 | 受傷 | |
| 12. 肱黒看護婦 | 火傷 | 八月十日死亡 |
| 13. 岩松看護婦 | 受傷発熱 | 九月一日死亡 |
| 14. 林看護婦 | 受傷発熱 | 九月六日死亡 |
| 15. 福島看護婦 | 火傷 | |

長崎医科大学職員並びに学生原爆被爆犠牲者数

長崎医科大学	職 員 数		学 生 数
学長	1	仮卒業	7
教授	11	4年生	36
助教授・講師	10	3年生	15
助手・副手	17	2年生	63
		1年生	73
小 計	39		194
附属医学専門部			
教授	3	仮卒業	5
		3年生	24(1)
		2年生	110(2)
		1年生	167
小 計	3		306
附属薬学専門部			
教授	2	3年生	23
		2年生	9
		1年生	5
小 計	2		37
看護婦		看護婦養成所	
婦長	6	助産婦生徒	1
産婆主任	1	2年生	24
看護婦	44	1年生	33
小 計	51		58
事務官	1		
事務員	男子95, 女子111		
小 計	207		
総 計	897名		

(平成8年8月調査結果。カッコ書きの8月1日250キロ爆弾犠牲者3名を含む)

在学生の被爆状況

基礎キャンパス

	被爆場所	出席者	被爆死亡者	死亡率
医科大学				
2年生	病理学講堂	63	63	100%
1年生	生理学講堂	73	73	100%
附属医学専門部				
2年生	衛生学講堂	108 - X	108 - X	100%
1年生	解剖、生化学講堂	167	167	100%
附属薬学専門部				
3年生	壕内・薬品庫・薬草園	29	23	79%
2、1年生		不明	14	

臨床キャンパス

	被爆場所	出席者	被爆死亡者	死亡率
医科大学				
4年生	臨床各科	約70	36	51%
3年生	臨床各科	不明	15	
附属医学専門部				
3年生	臨床各科	不明	23	
2年生	南講堂、病室	4 + X	X (10~20)	
看護婦養成所				
2年生	臨床各科	不明	24	
1年生	臨床各科	不明	33	

在学生の被爆状況

基礎キャンパスでは原子爆弾投下時四百名余の医科大学と附属医学専門部の学生が木造の五つの講堂にいた。受講学生の大半が講堂の中で座ったままの位置で教授と相対するように整然と並んで即死した。倒壊炎上する講堂からはいだし九死に一生を得た学生も爆心地から約五百五十メートルという至近距離で被爆、急性原爆症のため次々と倒れ一月以内に全員が死亡した。薬学専門部には三年生と学徒動員に参加しなかった一、二年生とが登校していた。多くは防空壕掘りの最中に被爆し、外にでていたものは即死、壕内で直接被爆をまぬがれたものの少数が生き延びた。

臨床キャンパスでは卒業試験の為に医科大学四年生と附属医学専門部三年生の大部分が出席していた。医学生だけでなく、看護婦養成所の生徒も臨床各科に配属されていた。附属病院は堅固なコンクリートの建物であったので、被爆した場所により生死を分けることになった。コンクリートであっても崩壊した箇所が多くやがて建物全体が火に包まれた。爆心地から附属病院は約七百メートルであったけれども、厚いコンクリート壁に遮られて直接被爆をまぬがれ、原爆症に苦しみながら生き延びた人も多かった。

(相川忠臣調べ)

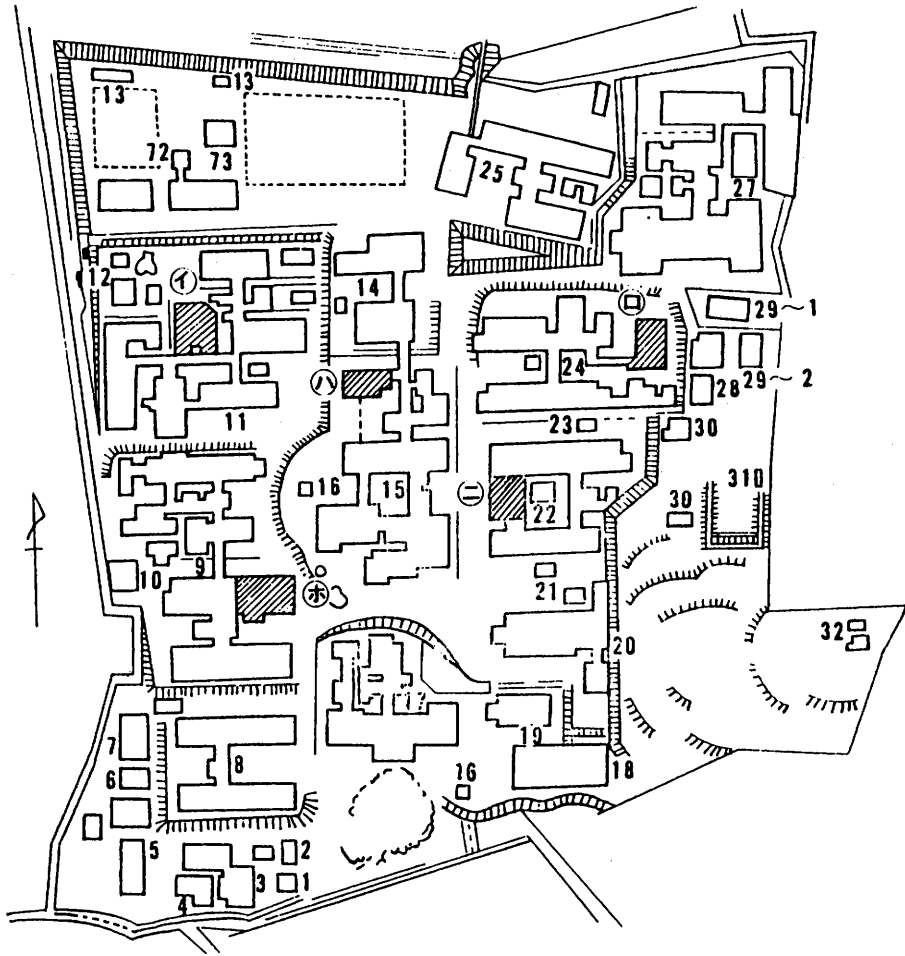
入院患者の被爆状況

原爆投下に先立つ八月一日、附属病院に二五〇キロ爆弾が投下され三名の学生が犠牲となった。この後入院患者の退院帰宅が勧められ、重症者を残して軽症患者のほとんどは原爆投下日までに退院していた。原爆投下時には入院患者一〇七名と付添人二〇名がいた。外来患者の被爆状況は全てのカルテと書類が焼失し、全くわからない。原爆被災復興日誌の中で調教授は患者数は外来を含めて約三百と書かれている。庶務課の原子爆弾統計表と原子爆弾当時人員一覧表によれば、入院患者数はともに一〇七名、死亡者数はそれぞれ五三名と五四名で一名の違いがある。付添人は二〇名中一九名死亡と一致した記載である。原子爆弾統計表には各科別に患者名も記載されている。その各科別人数を示すと次のようである。高南病棟(結核)、外科、精神科に多くの入院患者が残っていたことがわかる。

(相川忠臣調べ)

臨床科	入院患者	付添人
角尾内科	生存 一五	死亡 六
内科病棟	生存 六	死亡 二
高南病棟	生存 九	死亡 三
高北病棟	生存 〇	死亡 一
影浦内科	生存 四	死亡 五
古屋野外科	生存 一四	死亡 二
調 外科	生存 九	死亡 五
産婦人科	生存 〇	死亡 二
小児科(育児)	生存 〇	死亡 三
皮膚科	生存 一	死亡 三
眼科	生存 一	死亡 二
耳鼻科	生存 〇	死亡 〇
精神科	生存 一	死亡 〇
計	生存 五四	死亡 五三

旧長崎医科大学基礎教室の配置図



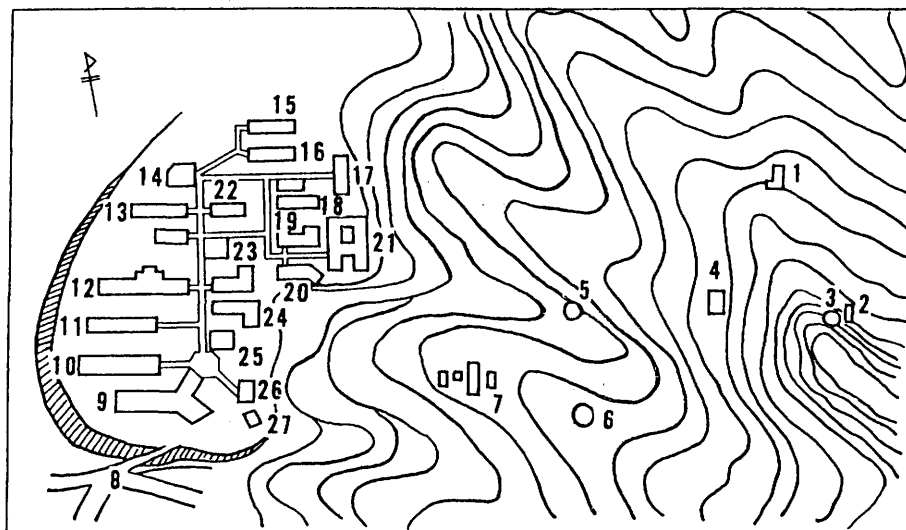
- | | | | | | | | | |
|-------|----|----|--------|-----|-----|--------|----|---|
| 1. 門 | 衛生 | 所庫 | 13. 物置 | ・便所 | 及脱衣 | 25. 薬理 | 学教 | 室 |
| 2. 自動 | 車電 | 車庫 | 14. 細菌 | 学教 | 室 | 26. 温 | 学專 | 門 |
| 3. 配生 | 剣道 | 室 | 15. 衛生 | 学教 | 室 | 27. 水 | 槽及 | ポ |
| 4. 学 | 議 | 場 | 16. 銅 | 学教 | 室 | 28. 水 | 槽及 | ボ |
| 5. 柔 | 道 | 置 | 17. 本 | 学教 | 室 | 29~1. | 銃 | 器 |
| 6. 物 | 工 | 室 | 18. 雨 | 天 | 操 | 29~2. | 生 | 徒 |
| 7. 機 | 械 | 室 | 19. 学 | 天 | 集 | 30. 大 | 射 | 的 |
| 8. 法 | 医 | 室 | 20. 函 | 書 | 講 | 31. 射 | 会 | 議 |
| 9. 病 | 理 | 藏 | 21. 大 | 生 | 理 | 32. 睦 | 会 | 專 |
| 10. 土 | 学 | 室 | 22. 大 | 生 | 理 | 72. 医 | 学 | 專 |
| 11. 解 | 剖 | 学 | 23. 蓄 | 化 | 学 | 73. 生 | 徒 | 控 |
| 12. 焼 | 却 | 場 | 24. 生 | 化 | 学 | | | |

備考：斜線は多数の学生が遭難した講堂を示す。

- | | | | |
|---|------------------|---|------------------|
| イ | 解剖学講堂 (医専1年第1小隊) | □ | 生化学教室 (医専1年第2小隊) |
| ハ | 衛生学講堂 (医専2年生) | ニ | 生理学講堂 (学部1年生) |
| | | ホ | 病理学講堂 (学部2年生) |

(忘れな草五号より)

旧長崎医科大学附属病院及び東側丘陵の見取地図



1. 丘の中腹の民家
倒壊したが焼けず、この家より米と釜を持ち出し握り飯を作って被爆者に配給した。
2. 穴弘法の茶店
倒壊、焼けず
3. 穴弘法（様）
入口は幅55cm、高さ145cm、奥行は約3×3㎡の広さを有する洞窟で、奥に弘法大師が祀られている。一般の信仰が厚い。
4. 穴弘法寺
小さいが奇麗なお寺であった。真言宗、原爆の際倒壊、但し火災は起こらなかった。
5. 放射線科の急設バラックの所在地で、私（調）は8月9日の夜ここで一夜を過ごした。
6. 角尾学長及び高木附属医専部長が9日夜野宿されたところ。
7. 保健婦養成所
古い木造建物、原爆爆発後まもなく発火炎上。
8. 外来本館前の坂道
この坂道には人、馬などの死体が無数に見られた。
9. 外来本館：コンクリート建、地下1階、地上3階、全焼。
10. 内科病棟：地下1階、地上3階
11. 耳鼻咽喉科病棟：2階
12. 外科病棟：3階
13. 産婦人科病棟：3階
14. 北講堂：階段教室
15. 小児科病棟：2階
16. 眼科病棟：2階
17. 精神科病棟：2階
18. 皮膚泌尿器科病棟：2階
19. 高北（伝染病棟）：2階
20. 高南（結核病棟）：地下1階、地上2階
21. 看護婦寄宿舍：木造2階
22. 産婦人科手術室：2階
23. 古屋野外科手術室：2階
24. 調外科学術室：2階
25. 南講堂：1階平面、2階階段
26. 調理部：2階
27. 洗濯室：2階

（忘れな草五号より）

昭和二十年八月九日投下原子爆弾の犠牲となった 長崎医科大学職員並びに学生

この内容を刻した銘板は、
平成八年三月に建立された

【学長】

角尾 晋

【医大教授】

池田 吉人

梅田 薫

大倉 玄一

金子 直

清原 寛一

国房 二三

祖父江 勘文

高木 純五郎

内藤 勝利

内藤 達男

山根 浩

【助教授・講師】

芦塚 陽

石崎 戌

内田 信久

大和田野 浩一

菊野 晴二郎

斎藤 圭一

土江 乾一

中村 定八

【助手・副手】

相川 匡

伊賀 由喜友

菊地 秀夫

黒木 重徳

呉 福順

黄 過伝

佐藤 昇

才津 芳雄

周 積新

高木 直也

徳永 敏等

長尾 敏顕

中山 善敏

古川 一郎

三谷 秀夫

矢野 明

山田 英子

【医大仮卒業】

岩崎 誠彦

大嶽 乙哉

福田 秀信

呂 雲龍

【医大四年生】

相川 清澄

相羽 正

青木 武

今西 章

今村 喜人

岩切 達

上原 利之

梅原 正幹

大津 昇久

奥 和夫

鬼塚 正英

清崎 裕之

久保 哲雄

古賀 典志

蘇 百齡

園田 哲郎

戴 懷徳

柴田 清

鈴木 四郎

寺田 文彦

村上 吉作

村田 千秋

相川 清澄

相羽 正

青木 武

今西 章

今村 喜人

岩切 達

上原 利之

梅原 正幹

大津 昇久

奥 和夫

鬼塚 正英

清崎 裕之

久保 哲雄

古賀 典志

蘇 百齡

園田 哲郎

戴 懷徳

【医大三年生】

脇川 恭一

羅 時達

林 中鳳

毛利 元次

宮本 精一

宮城 三津次

谷口 誠

土肥 達一

中尾 守男

永見 敏樹

新名 清隆

西 憲治

昇 雅夫

原田 清巳

服巻 勝之

日高 和郎

肥後 実郎

平井 達也

穂坂 純一

宮城 三津次

宮本 精一

毛利 元次

林 中鳳

羅 時達

脇川 恭一

赤松 雅弘

白井 雅進

大池 未知生

大浦 裕

奥田 光男

片山 道生

滝口 薫

陳 克振

野口 修

花田 紀

古川 一郎

三島 俊夫

山崎 龍夫

楊 炳煌

李 鈞光

荒木 宗雄

五十嵐 国

生駒 晋助

池西 清

糸山 隼人

稲垣 明彦

江口 宏

小川 三郎

大場 次郎

大東 弘

竹高平田田鈴菅須新白治坂酒後古小黒久桐岐川風加何奧奧太
 田木良中中木沢開川村中井藤賀西田保原部上早藤藤何村田田
 実 劉 淳 喜 俊 道 俊 常 清 広 善 克 祐 洋 一 淳 作 也 郎 謙 平 哲 良 振 欽 巖 一 郎 裕
 一郎 浩 一 郎 夫 之 吉 弘 志 三 視 次 碩 郎 淳 作 也 郎 治 藏 郎 明 欽 巖 一 郎 司

【医大一年生】

米山山山森森百村蓑溝三堀堀藤深東樋林馬羽中中豊飛津谷
 沢本田田内崎田田口村部家井江久秀浩喜祖立山尾田正倫治吉行倫治吉
 健克滝邦久薫芳知治郎司勝郎寛健潤織一昭二保詒雄吉行倫治吉
 治弘雄久薫芳知治郎司勝郎寛健潤織一昭二保詒雄吉行倫治吉

高兒古古草桐吉川川金金片大大大上植市石石石石猪伊浅浅青
 妻玉賀賀野山良崎口山宮山原西西野田川川橋橋塚井股藤山井山
 秀光宏次肇克明之賢一治治登健夫二男輔男月忠等德安夫生明治
 夫望毅次肇克明之賢一治治登健夫二男輔男月忠等德安夫生明治

藤藤平百肥箱野野新西西中中中中鶴近谷立竹高瀬鈴菅島篠佐
 野田川野田田津野野口田谷田村司瀬川田石山石和本橋口木原寮秀三郎
 祐栄秀雄一郎清恭一男重司一夫博郎十四夫夫夫生亮二雄男二郎夫生
 一襄一雄一郎清恭一男重司一夫博郎十四夫夫夫生亮二雄男二郎夫生

【医専仮卒業】

清木青松保小
 田橋木尾野野
 和良伸哉京正直
 之道夫哉哉之治

【医専教授】

和龍米吉吉横山山山桃村宮嶺溝松松松前古
 田頭谷永岡山根田田原地脇口浦浦井橋坂
 正人集裏亮幸夫繁夫敏夫敬修信秀常勤重日出雄裕毅
 正人集裏亮幸夫繁夫敏夫敬修信秀常勤重日出雄裕毅

【医専一年生】

蛭浦浦梅上岩岩岩岩今犬出磯池井井安荒浅秋秋青阿渡和
原川上木村永永永田村塚田永利崎田上藤木田吉口木部正
守弘則郎人範洲功夫徳夫昭義彦昭二郎夫裕事治光一昭郎海三磨
守弘 則郎 人範 洲功 夫徳 夫昭 義彦 昭二 郎夫 裕事 治光 一昭 郎海 三磨 正守 弘行 主

小桑草草北北木木河川川川川蒲兼金角片片甲奥太大大大尾
森玉原野野村野村戸野原原頭崎上原信尾川野岡斐野田隈楠久保崎
巖昭司次通臣一彦之明吾磨勝次郎允男世也肇男夫敏昭男亨正彰男
巖昭 司次 通臣 一彦 之明 吾磨 勝次 郎允 男世 也肇 男夫 敏昭 男亨 正彰 男

隆多田田田田田田撰関杉杉調白下嶋嶋波柴柴篠篠重崎相相古
杉田吉本中尻代川津家山本石垣村田谷田田原崎松永良良味
悟正正利清達昭定雅克勝弘弘博隆正勝兵哲弘和房
郎幸英道視郎正義昭俊己成治仁知治之資人三昇衛肇男道雄雄
悟正 利清 達昭 定雅 克勝 弘弘 博隆 正勝 兵哲 弘和 房
郎幸 英道 視郎 正義 昭俊 己成 治仁 知治 之資 人三 昇衛 肇男 道雄 雄

野西西西長中中中中中中朝飛轟時東土土哲鶴立竹滝高比高比高
口村村谷山山山村島島尾長永木沢内橋橋翁石原川高比高比高
陽昭大三四昭正禎欣泰習唯大汎郎雄行基寿俊男豐一男昭博佑
一弘 治雲 茂郎 之明 三一 三也 三汎 郎雄 行基 寿俊 男豐 一男 昭博 佑

松松松松前前馬堀古藤藤藤福深平平平秀久日原林浜浜長橋野
本永田田鶴田川島田本原田田江山山山島松高田崎口川本本武
龜久藤信茂孝長弘栄元正武寛真勝克鶴康新菅恭三脩平光
人一祐璋也樹徳生久治輔義磨男貢之康巳市隆襄太郎男三脩平光
人一 祐璋 也樹 徳生 久治 輔義 磨男 貢之 康巳 市隆 襄太 郎男 三脩 平光

吉岡 董 山領正夫 山之内正信 山下嘉計 山下正之 山崎寿治 山崎邦雄 山口明次 森山晃二 森尾勝磨 森敏之 室園重義 牟田五十夫 宮本幸弘 峯本寛 光永応美 光岡喜一郎 溝口涉 水田肇 三宅紀男 三島清和 三重俊夫 三浦修造 丸田脩造 待山脩俊 松山常雄

奈良崎一城 多田哲雄 田中博幸 末永孝幸 陶山桂弘 小曾根邦弘 岡本省三 仰木英雄 江島憲修 石田憲敬 池田敏明 荒木一夫 【葉專三年生】 伊丹章吾 【卒業生・研究補助】 山下次郎 杉浦孝 渡辺陽一 若杉正弘 和田弘 劉嘉瑞 力武豊和 米村精一 吉村竜男 吉野克郎 吉田和郎

中倉光雄 中川哲夫 中尾滋国 竹本典国 早田傑 【葉專一年生】 吉田一馬 吉田功 安本道男 福田登 平湯司 田村時男 郡家淑郎 一番ヶ瀬忠政 青木茂樹 【葉專二年生】 渡辺寿 米田量平 山田庸夫 山崎武 矢富智久 村山直行 宮本保彦 松本登輝 松野義輝 藤田豊弘 橋本慶治

竹谷良子 後川千代美 菅川ハルヨ 霜川アサノ 小崎タケノ 倉橋満寿子 川崎信子 金崎久枝 加藤トシ子 大坪和子 緒方ヒサカ 内野和代 内尾文子 岩下スエ子 岩崎松子 井上ミツネ 井上光子 【看護婦】 園田チカエ 【産婆主任】 有村シゲ子 江下スム 田中米子 中尾ナツ 内田敏子 蒲島ユリ

吉田シズヨ 山下秀子 山下栄子 山口ヒロ 武藤ミサエ 峯本逸子 松本幸子 松岡トシエ 馬渡君子 本田年子 藤田和代 福田艶子 肱黒サエ 原黒サエ 浜田美幸 浜崎瑠吏子 橋本道子 橋本加奈子 野川ヤスノ 野副クミ 野口寿栄世 西下美代 長浜イト 中山ヨシエ 中野キクノ

【産婆生徒】

松尾 タツヨ

【看護婦養成所】

荒木 信子

井戸 洋子

磯田 千代子

大柳 ツヨ

大山 フヨ子

榎山 房枝

川口 シメ

川谷 ミチ

河田 久枝

田中 松枝

土岐 富美子

橋本 ユキノ

浜辺 ヨシ

林 末子

平山 タヅ子

保家 信江

光永 良子

峰 永ヨリ

宮本 ハルエ

武藤 サトエ

湯川 明子

吉田 喜代子

吉本 ミシエ

若松 嘉子

【厚生女学部】

岩永 君枝

江林 キヨノ

小川 和子

大久保 夏江

川上 アサエ

河野 鈴子

五嶋 マチ子

品川 ジツエ

白石 チヅコ

早田 タカエ

谷口 千鶴子

谷村 セツ

塚本 秀子

中村 六江

野田 マサエ

野田 ツキ子

半泊 ハマ子

福島 スギエ

藤井 セツ子

藤山 ハルノ

藤山 ミキエ

淵野 フジエ

古巣 ヒサ子

前田 節子

前田 信子

増山 貞子

松園 節子

松本 綾歌

光井 チヨル

山下 栄子

山下 栄子

山下 ハツ

吉本 キミエ

山木 武俊

相川 武夫

赤野 義祐

井手 貞市

伊藤 三雄

猪股 憲一

池井 国松

池田 国松

池田 国松

石橋 定次

市原 啓次

岩本 貞吉

梅津 梅治

小川 留郎

小川 留郎

尾上 亀次郎

大浦 浩

大野 多作

帯屋 昌生

甲斐 安太郎

片岡 初市

桂 和七

上 貞次

亀本 近六

川口 菊太郎

木下 大吉

久保 卯喜四郎

倉田 乙一

黒川 作市

黒田 福馬

近藤 次義

佐藤 寅一

佐藤 寅一

佐藤 寅一

崎田 関一

篠崎 保一郎

鈴田 保一郎

瀬戸 国久

早田 一喜

早田 一喜

田川 喜八

高谷 重雄

立川 孝太郎

谷本 十三郎

地本 鶴松

辻 栄作

堤 善吉

土井添 竹四郎

中岡 茂三

中野 伊作

中村 勝吉

中村 繁治

中村 繁治

永田 熊太郎

南里 經次

西浦 一二

西田 藤幸

西田 藤幸

野間 和一郎

野間 和一郎

橋田 敖綱

羽田 卯吉

浜崎 力太

原 寅一

原 寅一

平原 身武

深野 昭規

深堀 昭規

福井 辰之助

藤永 象一

本多 成利

前田 五十鈴

益永 弘

【女子事務員】

町田 信治	五十嵐 サミ	小 笹 ハツエ	永 野 マサエ	間ノ瀬 ツタエ
松浦 馬太	井手 篤子	小 松 フミ子	西 田 利子	前川 君枝
松島 秀利	石川 マツミ	小 宮 ミチエ	西 村 ユキ	前田 政子
松田 彦七	市川 小夜子	小 村 美智子	西 本 ヨシ	松尾 エミ子
丸勢 徳次	稲尾 ソモ	小 柳 クニエ	野 中 富子	松尾 滝子
三浦 忠雄	稲田 ツルヨ	小 山 幸子	馬 場 節子	松尾 利子
深山 芳幹	岩永 サヨ子	佐 藤 テルミ	橋 本 米子	松尾 春子
溝田 輝雄	岩永 敏子	坂 元 フジエ	浜 岡 キヨ子	松尾 マサノ
山口 英一	内野 輝子	真 田 篤子	浜 崎 ヒサエ	松岡 礼子
山口 作太郎	浦田 笑子	執 行 信子	浜 田 フミ子	松岡 スナ
山口 静夫	江崎 ミツ	塩 本 キミヨ	林 田 静子	松坂 ミヨ
山口 末三郎	小川 スチ	菅 泰 子	早 渕 ケイ	松永 チヨノ
山口 武夫	小野 輝子	早 田 マツ子	比 嘉 ヨシ子	溝口 アサノ
山口 与作	大塚 ヨシエ	田 川 キク	平 石 喜美子	溝越 親子
山田 今平	大友 ハツ	田 中 芳枝	平 田 マツノ	村田 百合子
山野 源次郎	岡田 綾子	田 中 和子	平 山 春子	村松 絢子
山本 正太郎	岡田(谷) 醇子	高 塚 アサノ	平 山 富士子	村山 トシエ
山本 利吉	奥平 幾代	達 木 昭子	深 井 ハツ	森野 千都
山本 利吉	片岡 アキ	玉 屋 キクエ	深 井 光子	山崎 アサノ
横尾 久吉	片山 幸子	常 田 千代子	深 川 シズノ	山下 実枝
横瀬 久吉	川口 貞子	角 田 セキ	深 堀 エキ	山田 富子
吉井 浅太郎	川脇 リク	土 居 ユキエ	深 堀 君子	山中 フジ子
渡辺 直進	久保 マリ子	中 島 マサ子	深 堀 久枝	山野 シツ子
	草野 チヨカ	中 田 ハルノ	福 島 悦子	山野 キクエ
	黒川 マツ子	中 路 テレイ	福 田 穂実子	山本 タツ
	小佐々 チエ子	中 村 ハルエ	福 丸 君子	吉田 マサエ
	小佐々 ノブ子	永 尾 スエノ	本 多 康子	吉本 サヨ

原爆犠牲者名簿について

長崎大学医学部記念講堂ロビーの壁面には、「昭和二十年八月九日投下原子爆弾の犠牲となった長崎医科大学職員並びに学生慰霊の碑」として犠牲者名簿が銘板に掲げられています。ここに掲げられた犠牲者は原爆による即死及び急性障害によって死亡された方々であります。尚、この銘板は、昭和四十二年八月九日建立となっており、調 来助自書、松岡國一刻によるものであります。調 来助先生は被爆当時の惨状の中で、また先生自ら原爆被爆による急性障害の病床の中で、人的・物的被害、医療救護活動の状況などを几帳面に記録しておられます。病氣回復後も大学の復興に心血を注がれるかたわら、長年に亘って犠牲者の遺族の世話をされて来られました。その間新たに判明した犠牲者若干名の追加が行われておりますが、昨年、被爆後五十周年を迎えるに際して、改めて情報蒐集を行いました。五十年を経て新たな情報を得ることは極めて困難であると予想しておりましたが、ご遺族、被爆生存者、同窓会員や新聞記事などから貴重な情報を得ることが出来ました。そして忘れな草五号に記載されている八九二名の犠牲者に新たに五名の犠牲者を追加することになりました。その方々は医大副手（昭和十八年卒）相川 匡、長尾敏頭、医専一年生堀 長生、薬専一年生早田 傑、薬専副手伊丹省吾の各氏であります。尚、銘板にあつて忘れな草には記載されていない薬専学生の竹田克己氏は長薬同窓会の調査の結果昭和二十七年八月に死亡されたとの事で犠牲者名簿からは削除致しました。この様にして、原爆被爆犠牲教職員、学生、総数は八九七名になりました。ここに原爆犠牲者の方々に改めて心よ

りご冥福をお祈り申し上げる次第であります。原爆犠牲者の氏名は、原爆復興五十周年記念事業として医学部緑地内に建立された記念碑横の銘板に刻されています。

尚、今後も新たに犠牲者として加えられる方があるかも知れません。犠牲者に関して新しい情報がありましたら、医学部同窓会へお知らせ下さいませ。様お願い申し上げます。

（池田高良記）